



# 指扇中だより



～WE LOVE SASHIOGI!～

〒331-0078 さいたま市西区西大宮 3-31-1 TEL 048(624)6234 FAX 048(624)2479

## 『琥珀色の思い出』

校長 おおこうち のりかず 大河内 範一



あけましておめでとうございます。皆様にとって、幸せいっぱい、夢いっぱいの1年になりますように！

娘が幼稚園に通っていた頃、私は「PTA会長」を務めていた。この役職の最も重要な任務は、卒園式で「保護者代表謝辞」を担当することであった。お世話になった先生方の前で会長が読み上げる朗読を聴いて、出席している保護者たちが一斉に涙を流すというのがお決まりになっていた。私は人々の期待に応えるべく、例年以上に感動的な言葉を散りばめた文章を、渾身の力を込めて作成した。そして、前日の夜中の3時まで朗読の練習を繰り返したという懐かしい思い出がある。実は年末に部屋の片付けをしていたところ、当時の原稿が見つかったので、大好評だった（と勝手に思っている）謝辞の一部を掲載しようと思う。

初めて子どもが生まれ、この手に抱きしめた時、私は一生この子を愛し、守っていこうと誓いました。そして、ただ泣き声をあげることしかできなかった我が子が、歩くようになり、話をするようになり、ともに笑い合うことができるようになり…、私の人生の喜びはすべてこの子になりました。そして本日、真剣な表情で保育証書を受け取っている姿を見ていたら、感動で胸がいっぱいになりました。～中略～ 子どもたちはこれからどんどん成長していきます。一層かわいらしく、一層逞しくなるでしょう。そして、青春時代を迎え、素敵な恋もするでしょう。私たちは我が子が立派な大人に成長し、自分たちの元を巣立っていく時まで、愛情をもって大切に育てていきたいと思えます。先生方、卒園していく子どもたちを、これからもずっと見守り続けてください。〈涙、涙…〉

生徒の皆さんは、家族や多くの人に見守られながら成長してきたのだ。今現在、素直とは言えない態度をとったり、無礼な口をきいたりしている人もいるかもしれないが、いったん気持ちを整えてほしい。新年を迎え、皆さんに心から願うことは、「真心を込めて、愛を込めて、人と接することができる大人になってほしい」ということである。これからの飛躍を大いに期待している。

さて、そんな娘もこの1月に成人式を迎える。先日、娘が運転する車の助手席に座った際、私は「いつかパパのような素敵な旦那様にめぐり逢えるといいね。」と話し掛けてみた。娘は「ハハッ」と、昔と変わらぬ笑顔で失笑していた。